

<平成29年度 ハローオリンピズム事業>

# オリンピック教室

実施報告書

埼玉県 川越市立野田中学校

Olympic  
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会



現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことの出来るものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。

平成29年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成29年4月～平成30年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 50校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目  
運動の時間 (50分)



2時限目  
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

#### 挨拶（5分）

#### 準備体操（10分）

#### 主運動（30分）

#### まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動  
（作戦タイム等を受け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

### 座学の時間

#### 挨拶・自己紹介（10分）

#### オリンピックの価値を伝える（10分）

#### グループワーク（20分）

#### まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



# 実 施 内 容

- 期 日 : 平成30年1月18日 (木)
- 場 所 : 川越市立野田中学校
- ク ラ ス : 2年1組 (33名) 2年2組 (33名)
- オリンピアン : 宮下 純一 先生 (水泳・競泳)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



・宮下先生から自己紹介をした後、東京2020大会では、埼玉県でゴルフ、サッカー、バスケットボール、射撃が行われることに触れ、オリンピックを身近に体感できる機会なので是非観戦したり、ボランティアとして参加してほしいと伝える。今日はオリンピックを身近に感じてもらい、楽しく過ごしたいと話し、準備体操へ移る。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



・3チームに分かれて大縄跳び (90秒×3回) を実施。跳び方は8の字跳び、全員跳びから選択し、8の字跳びは跳んだ回数を得点とすること、全員跳びは跳んだ回数に人数を掛けた数を得点とし、引っ掛かったら0から数え直し、終了の合図が鳴った時 (またはその直前) に跳んでいた得点を発表、2回の合計得点が多かった上位2班で決勝戦を実施し、3位のチームは大きな声で応援する。

## 4. まとめ



・決勝進出をかけて各チーム様々な事を考えたと思うが、オリンピックでも作戦を考えたり、駆け引きをしたりして、オリンピックで泳いだ1分間のために全人生をかけたと話す。こうして考えた作戦は数が多い程選択肢も増え、勝つチャンスが出てくると伝える。座学の時間では運動の時間で感じたことを意識しながら、オリンピックについてより詳しく話すと予告し、授業終了。



# 実施内容

## ■授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

### 1. 自己紹介と授業の目的を確認



・自身が経験したオリンピック出場までの経緯や出場して感じたことを伝え、オリンピックを身近に感じてほしいと授業の目的を確認。北京大会の映像等を見せながら改めて自己紹介し、宮下先生にとってのオリンピックバリューを説明。オリンピック出場を目指す中でこの3つのバリューを感じることができたと話す。

### 2. オリンピックの価値を伝える



### 3. グループワーク



・発問:オリンピックバリューは皆の日常生活の中にあるオリンピックバリューを考えてみよう。  
・発表:体育祭の練習では勝てなかったが本番で優勝出来た、苦手な英語を先生に教えてもらって克服できた(エクセレンス)、大会でチームメイトの応援が力になった(フレンドシップ)、寒い日に母親が暖かいお弁当を作ってくれた、ライバルとお互いのいいところを言い合えるようになった(リスペクト)等の意見が挙げられた。



### 4. まとめ



・東京2020大会では皆もオリンピックに関わるチャンスがあり、選手として出場するだけでなく、ボランティアや来日した海外選手に丁寧に接することもオリンピックに関わるチャンスのひとつである。自分はどんな風にオリンピックに関わることができるか、何ができるかを考えながら、東京2020大会を楽しみに迎えてほしいと伝え、授業終了。



# 実 施 内 容

- 期 日 : 平成30年1月18日 (木)
- 場 所 : 川越市立野田中学校
- ク ラ ス : 2年3組 (33名)
- オリンピアン : 小菅 寧子 先生 (セーリング)
- 授業のながれ : 運動の時間 (5時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



## 2. 準備体操



・小菅先生から自己紹介をした後、今日はオリンピックについて考えるので、まずは運動を通してオリンピックバリューが身近にあることを伝えていきたいと授業の目的を確認。授業を通して「一生懸命取り組むこと」「助け合って協力し合うこと」「ルールを守ること」の3つに取り組んでほしいと伝え、準備体操へ移る。

## 3. 主運動



・3チームに分かれて大縄跳び(90秒×4回)を実施。1回戦、2回は8の字跳び、3回戦、4回戦は全員跳びを実施。8の字跳びは跳んだ回数を得点とすること、全員跳びは跳んだ回数に人数を掛けた数を得点とし、引掛掛つたら0から数え直し、一番高い得点を発表。各回終了後に作戦タイムを設け、どうすれば回数を増やすことができるかを話し合う。

## 4. まとめ



・運動の時間を通してエクセレンス＝一生懸命取り組むこと、フレンドシップ＝協力すること、リスペクト＝ルールを守ること、という3つのオリンピックバリューを自然と実践できていたと話し、一生懸命取り組んだ全員を拍手で称える。座学の時間は更に詳しくオリンピックについて伝えていくと予告し、授業終了。



# 実 施 内 容

## ■ 授業のながれ： 座学の時間（6時限）

### 1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・映像を見ながらセーリング競技について紹介。セーリングは競技用具を使うスポーツであり、道具を上手に使わなければならないこと、自然との駆け引きが重要なスポーツであること等を説明。
- ・オリンピックバリューについて考えてみよう授業の目的を確認し、小菅先生の経験とを通して感じたバリューについて説明。

### 2. オリンピックの価値を伝える



### 3. グループワーク



- ・発問:運動の時間を振り返って実践できていたオリンピックバリューについて考えよう。
- ・発表:跳ぶ順番や並び順を工夫した、チームで作戦を立てて団結して取り組んだ（エクセレンス）、皆で話し合い改善できた、仲間と協力して取り組むことで達成感を感じた（フレンドシップ）、ミスをしても周りがフォローしてくれた（リスペクト）等の意見が挙げられた。

### 4. まとめ



- ・運動の時間と同じように、オリンピックバリューは日常生活の中でも感じることができるので、皆には普段の生活や行動も大事にしてほしいと話す。これから夢や目標を持った時は、一歩ずつ進むことを意識し、上手いかなくても諦めずに続けてほしい。楽しいことを突き詰めてやれば物事がいい方向に進んでいくと伝え、授業終了。





■ 集 合 写 真

2年1組



2年2組





■ 集合写真  
2年3組



■ 記念品贈呈  
2年1組



2年3組



2年2組



■ 証明書贈呈

